

反キリスト 出現騒動

嘘の片翼が折れた。

主イエスはかつて、このように教えられた。

ルカ12:1 とかくするうちに、数えきれないほどの群衆が集まって来て、足を踏み合うほどになった。イエスは、まず弟子たちに話し始められた。「ファリサイ派の人々のパン種に注意しなさい。それは偽善である。

12:2 覆われているもので現されないものではなく、隠されているもので知られずに済むものはない。

12:3 だから、あなたがたが暗闇で言ったことはみな、明るみで聞かれ、奥の奥で耳にささやいたことは、屋根の上で言い広められる。」

これは主のみことばである。キリスト教の敵対者・反対者に向かって、主の民に対して与えられたみことばである。そうだ。ほんとうにそうである。キリストの共同体を揺り動かしてきた者たちは、このように、奥の奥で人々に言った。2つの嘘を語った。

C Tは統一協会である。

C Tは反キリストの集団である。

暗闇において黒幕とその手下は、ほうぼうから人を呼び、奥の奥に集め、このようにささやいた。「狼が来た。今来ている」と、羊飼いの少年のように叫んだ。それで、クリスチャン・トゥデイ(以下C T)を愛する者は心配し、C Tについて知らない者は混乱に陥った。そしる者はこのような混乱を見ながら快哉を叫び、互いに握手して別の陰謀をめぐらした。そして嘘の証言のために、公開的なウェブに拡散し、討論の部屋にこの問題を持ち込み、中傷・非難をはじめた。その焦点は2つである。

C Tは統一協会である。

C Tは反キリストを信じる集団である。

さて、不思議な現象が起こった。そしる者がつくったホームページに、C Tの支持者が現れはじめたのである。これは神の恵みである。彼らが一つひとつ、この奇怪な攻撃の原因と事実関係を問うていった。そうしながら、次のようなある観戦者が中間の結論を引き出した。

(①～⑫ 日本語のため割愛)

このようになったので、自然に嘘の翼が片方折れた。実に衝撃的なできごとだった。奥の間でささやきながら陰謀をめぐらしていたその勢力が、さばきを受けたのである。「C Tは統一教会」「C Tは反キリストに追従している」というこのことばに対し、即座にこのように観戦者は問うた。単純な質問と問題提起だった。「では、統一教会の中にキリストが2人いるというのか？」読者は、討論に参加した者たちは、即座にこのそしる者の弱点に気づいた。そして、このそしる者は二枚舌を持っていることを暴露した。「C Tが統一教会なのか？ では、統一教会の中に再臨の主が2人いるのか？それが可能なのか、脱カルト教会に聞いてみる。」その問いに、ある者が即座に答えた。「そうなりえる可能性は0%」と言った。そしる者の自家撞着、自己論理の矛盾であった。サタンは常にこうである。そこで慌てはじめた。討論が長くなるにつれ、これが深刻な問題になっていった。そこで黒幕とその手下たちは、このように構想を練った。「2人だが、1人は父の再臨主、もう1人は子の再臨主だ」と。実に嘘の極致である。ここまでくると、深刻な論争もコメディになる。

さて、大衆は知恵深かった。この笑える論理にみなが「いいえ」と答えた。だれもこれを聞いていないので、そしる者はそれを慌てて覆い隠し、過去に渡って調べあげはじめた。30年前にまでさかのぼった。しかし、大して収穫はなかった。キリスト教は回心の宗教だからか？ キリストにあってはすべてが新しい被造物だからか。そこで、そしる者たちは作戦を変更した。「もうだめだ、一つを捨てよう。」矛盾の翼では、私たちは飛ぶことができない。そこで、片方の翼を自ら切り落とした。それが何か。C Tが統一協会ではない。この一つの結論に至るまで、実に長い年月が必要だった。黒幕が韓国に騒動を起こし、このことを扱いだしてから3年が経っていた。

黒幕とそしる者たちは、このように語った。「C Tは統一協会である。そして彼らは統一教会の建物を使い、統一協会の支援を受けて活動している」と。そしてその嘘の情報を韓国に連絡し、韓国の、自分たちとコードの合う言論を煽動し、韓国教会の政治権力を通じてC Tを圧殺しようとした。けれども神の恵みにより、その嘘は2年に渡る2度の調査を受け、終息した。そしる者たちの完璧な敗北であった。C Tは統一協会ではない。それで公文書を送った。けれども敵たちは、上で観戦者が評したように、これが出てくれば問題になるから、自分たちの嘘を隠そうとそれを黙殺し、奥の間に人を呼んで、新しい陰謀をめぐらしはじめたのである。

今こうして述べている陳述は、真実に根拠を置いている。整理してみよう。その結論は何であったか？ その長い嘘の翼が折れたということである。「C Tは統一協会である。だからカルトだ。」今やその嘘は終わったのである。そこで私たちはこのように要求する。「この一つのことだけでも謝罪せよ」と。それは誤りであった。そういうことである。それはクリスチャンとして、別に難しいことではない。しかし謝らなかった。そこで今、沈黙していた者たちが現れ、この問題を取り上げ、こ

のようなまねをした者たちの動機と、さらには陰謀の実際を見て、声をあげはじめた。謝れ、いさぎよく嘘は嘘と認めて謝れ。

この問題が解決すれば、ほかのすべての問題が解決する。しかしそしる者たちは、黒幕とその手下たちは、暗闇にまた人を集めてささやいた。「嘘であり、事実ではないが、これを引き続き広め、これでもって攻撃し、多くの者を誘惑しなければならぬ」と言うのである。ゆるめてはならない、と……。けれども今や、時が来た。奥の間でささやいたことが屋上で叫ばれている。彼らの正体は徐々に明らかになり、陰謀の実態が表に出るようになった。C Tは統一協会ではない。

このようになって片方の翼を失ったそしる者たちは、いま衝撃を受けながらも、予想していたとおり、最後の汚れた矢を準備し、放ちはじめた。それは何か？「彼らは今日のカルトである。今日彼らは反キリストの集団である」と煽動しはじめた。ほんとうに鉄面皮のような人たち、厚顔無恥な人たちである。ひとつの嘘により去る数年の間、キリストの共同体をだまして混乱させた者たちが、悔い改めず謝罪せず、別の陰謀をめぐらしているのである。われわれは今、最後の汚れた矢と最後まで戦い、折ろうとしている。妄想の次元を超えて、組織的な犯罪行為である。その実体を一つひとつ暴いていこうと思う。

そしる者たちの難しい点の一つがある。論点を離脱し、観戦者を錯乱に陥れるのである。すでに言ったことを聞いていなかったと言い、さらに問題になることは、ゲームのルールがないという点である。向こうから聞いてくれば私たちは答えた。しかしその答えを無視し、答えは見ないふりをし、さらに嘘を言う。その例が「ムネの日記」である。彼は、彼のノートに対する問題提起に対し、明快な答えをした。「その答えに対してお前たちが答えろ」と昨日、ある記者は言った。そうしたら実に奇怪な答えが返ってきた。これが答えであると。それは何か？ほんとうに驚くべきことは、すでに終わった論争を、再び引っ張り出してきたという事実である。それは何か？

- 1)現代宗教
- 2)パン・カクソクの日記(中国語のサイト)
- 3)リック・ロスという、反キリスト教のサイト

実に驚くべきことである。「それがすべてだ。あちこちのあざ笑う声が聞こえて、今やほんとうに矢が尽きたのだな。そしてほんとうに困窮しているのだな。」そしてさらに、そのような分別のないまねをすることは、最初から異端と捏造し魔女狩りをする、商業的なそしてサイバーテロリストのような動機が隠れていたのだなと分かったのである。どうやって数十万回も答えたことを繰り返したのか？それほど資料がなく、困窮している。数十万回も答えたのに、である。「ソーラ・

グラシア」(Sola Gratia／アドレス)だけを見ろ！　ここでだけでも何度となく繰り返している！　『現代宗教』誌の最後の謝罪記事の一部分を見せよう。

「しかし記者は、多くの苦心の末に、たとえ一方から非難が押し寄せたとしても、間違った内容があればしっかり捉えるべきことはしっかり捉え、知らせるべきことは知らせなければならないという所信で、いま過去の問題になっていたハンビット大学生宣教会はないという結論を出した。そして、チャン・スジン牧師とハンビット大学生宣教会の判断は、その所属教団の責任と任務にお返ししなければならないだろう。」(『現代宗教』2000年7／8月合併号に掲載された「理解と協力により福音の道を」という、当時のシム・ウヨン編集局長の謝罪・訂正記事)

このように整理されたのである。記者の良心に従い整理されたのである。そして、パン・カクソクの日記は、異端の攻撃であると言った。彼らが自らすべて消して、謝罪したものであると言った。そして残るは、リック・ロスというサイトである。この論争は最後まで、そして楽しみながら受け入れることができる。それだけ資料があり、証拠がある。しかし今日はいったん、前回書いたものをまた持ってきてみよう。このように整理された。

リック・ロスは誰か？　彼は上のサイトに、その人格が現れている。ユダヤ人であり、反キリスト教の人で、多くの問題を引き起こしてきた人物である。そして、彼がどのようにキリスト教の共同体を攻撃したかということが、そっくりそのままここに出てきている。

(アドレス)

数多くの団体を、新たなカルトとしてきた者である。これを見よ。彼のサイトには、有名な教団・団体も、新たなカルトではなく、破壊的カルトとして出てきている。これは嘘ではない。そのように出ている。したがって一旦問おう。

CCC／AG／YWAM／Hillsongが、彼の分類どおり破壊的なカルトなのか？　ちがうのか？　それだけをまず言ってみよ。そこから答えを聞きたい。

2番目に、その匿名の討論サイトの、顔のない者たちの面々と主張を見てみよう。ACMに対する討論を見よう。

1) あるマレーシア人ひとりが、自分がACMを非難し、彼は逃げていった。そうして、サイトの管理人に、自分が書いたことは誤りであるから消してほしいと言った。ならば、問題を提起した者が消せば済む話である。しかし管理者は消さなかった。そして代わりにhelloとアップした。これがお話になるだろうか！　最初に問題を提起した者は悔い改めて去った。このような討論の始まりはあるか？　彼はどこにいるか言ってみよ。

2) それを見て、アフリカのACMの羊を盗もうとする異端者たちが来て、ACMを攻撃しはじめた。(これは最後に語ろう) そして彼らは、たくさんの嘘を並べ立てた。彼らは「CDがある」、そして「どこかキリスト教団体の事務室に置いてある」、「それは福音主義団体のどこどこである」、そして「福音派の指導的な牧師の有名な人が援助している」と言った。彼らの団体と名を盗用した。(ソーラ・グラシアーアドレスー参照)

そこで、盗用された団体と人物が抗議した。そして捜査に入った。あとで分かったことだが、1～2名の異端が騒動を巻き起こしたのである。するとアメリカで、ある者が現れた。彼は自分をアメリカ人だといつわった。しかし彼は調べてみるとアフリカ人であり、アフリカ人を助けるために自分が文章を書いたのだと言った。もはや遅いのにである。彼も騒動を巻き起こして去っていった。これが「討論板」の結論である。

3) このような混乱は、宣教団体においてよくありえることである。宣教を妨害する迫害者たちは、常にどこにでもいる。しかしこのような大学生宣教会の問題を持ち出して、自分の嘘を覆い隠す証人になろうということが、いったいどこで通用するのだろうか。いまは恥ずかしいが、世の法廷においてもこれが証人になるか、判断を仰ぐ時が来た。顔のない討論板において語った証拠が、証拠になりえるだろうか？ 証拠にはなりえない。少なくとも教会の法廷においては、すでに私たちは「申命記19章」に語られているとおり、明確な証拠を示す者に対面しなければならない。

しかし、顔を見せる証人は現れなかった。日本に現れたいわゆる脱会者という者たちは、「私たちは知らないが、彼らは秘密主義があるようだから、その中に反キリストの教理があるだろう」と推測する。一つの証拠もない。そしてさらに深刻な問題は、カウンセリングをする者たちが彼らを洗脳し、すなわちプログラミングして懐柔したという証拠も出てきている。これは犯罪行為である。

最後に整理しつつ聞こう。そしる者たちは答えろ。統一教会だとそしったことをいさぎよく謝罪しろ。そしてあなたたちの言う「CTが反キリストの集団」であると言う、まともな証人はどこにいるのか？ それから答えて連れて来い。

彼らを連れて来い。証人として立ててみろ。教会の法廷なり世の法廷に立ててさ裁こう。彼のことが偽証か否か裁こう。われわれは、顔のない者の陰謀であり、偽証であると言った。いまや顔を出し、名前を出して答えるべき時が来た。嘘つきのそしる者が言ったように、これが事実ならば重要な問題ではないか？ だから堂々と彼らの名前を明らかにし、連れて来い。隠れるな。隠すな。奥の間でささやくな。隠すな、そして逃げるな。これは逃げて済む問題ではない。奥の間で陰謀を

めぐらしたり、根拠ないことばをウェブ上に出して煽動するな。もう一度言うが、証言者を連れて、教会の法廷なり世の法廷なりに来い。そして白黒はっきりつけよう。

われわれは語るべきことはみな語った。「ムネの日記」(アドレス)と「ソーラ・グラシア」(アドレス)が、その充分な証拠だ。すべてのことをみな答えた。不足なく語った。だから今度は、黒幕とその手下たちが語れ。

今やそしる者たちは、最後に残った教会政治権力をけしかけ、言論圧殺に打って出るかもしれない。それは失敗するだろう。なぜならば、何ごとが立つのも神の計画があるからである。すずめ一羽が地に落ちるのも神の許しなしには不可能である。